

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

関宿通多功道を歩く(多功天神町・鞘堂)

先月は日光道中を紹介しましたが、日光東街道とも呼ばれた関宿通多功道を紹介いたします。この街道は名前からわかるとおり、千葉県の旧関宿町(現:野田市)から茨城県境町・結城市、栃木県小山市を通り、旧南河内町から上三川町の多功に至り、鞘堂にて日光道中に合流する日光道中の東側を通る脇街道でした。現在の県道結城・石橋線とほぼ同じルートになります。

日光道中は、日光東照宮への参拝者などで混雑することから、この道は境河岸や関宿河岸から利根川を使い舟で江戸を結ぶ、物流の大動脈として賑わいました。今月は、上三川町で唯一の宿場町だった多功宿がスタートです。

多功宿は、明治南小学校の西にある、現在の多功十字路付近にありました。宿付近での街道の道幅は5.5m、家数が133軒でした。江戸時代に幕府が作成した「五街道分間延絵図」には、現在は門だけが面影を残す本陣・問屋が描かれています。また、町指定文化財がある宝光院の前の道の中央には、市場に祭られ、取引をまもる神様である「市ノ神榎」が描かれています。約300年が過ぎた現在の宝光院の門前にも、町の名木古木の一つである推定樹齢250年の宝光院のエノキがあり、当時の光景を



宝光院の周囲は当時の宿場の面影が残っています

思い浮かべることができません。多功十字路の交差点を北上すると、やがて当時天神と呼ばれた多功天満宮が左手に現れます。ここから1kmほど東に離れた場所には、木田権現が描かれています。現在はその痕跡もありません。天神町を過ぎると、当時と同様、畑の中を道が進みますが、日光道中と合流する追分(現在の鞘堂付近)の手前で、JR宇都宮線によって関宿通多功道は分断されてしまい、当時の道をたどることができなくなっています。関宿通多功道は主要街道の一つでありながら、その存在を知っている人が少ない街道の一つです。この忘れられてしまった街道を、むかしの旅人のように歩いてみませんか?きつと新しい発見があるはずですよ。

た報川柳 岡島秀宝 選

乗る客も知人となつた始発バス

雨あがり相々傘へまだほてり

出来栄えへぼとりと落ちた玉の汗

十六のスカート足を自慢する

物忘れメモを頼りに書く日記

行列で買ったくじにも見離され

子が巢立ち大きな家に共白髪

行列に行列してるカメラマン

お付き合い世代交代知らぬ顔

振り向けば平々凡々ありがたい

石田 大島昇太郎

上蒲生 柳田 政孝

上蒲生 菅原 妙子

石田 柳田キミ子

大町 大八木トク

石田 稲葉 チイ

上蒲生 渡辺 文子

石田 大塚 ナカ

上蒲生 菅沼 マサ

上蒲生 柳田 智江

